



# 小国中学校 学校だより



令和3年 1号  
文責 狭間



## 「ALL FOR THE NEXT ～9年生の姿に責任を持つ～」

うだるような暑さが続く毎日ですが、一年間延期された東京オリンピックでの各国代表選手らの躍動する姿や、大会運営に尽力するボランティアの方々の姿に、清々しい思いを感じることができます。夢を追って努力する者と、その努力を支える者の姿に心動かされる日々です。

この四月、53人の新入生を加えて、全校生徒154人でスタートした本校です。今年の入学式もコロナ禍での実施ということで、ご家族のみに参加人数を制限しての開催でした。本来であれば上級生はもちろんのこと、地域の方々にも見守っていただく中で実施したかったところですが、それができないもどかしさがありました。それでも入学式の会場を作ってくれたのは、9年生・8年生の生徒であり、その生徒らは各教室に待機し、オンラインの配信映像で新入生の姿を見守ってくれていました。(式後の会場の片付けもてきぱきと対応し、上級生としての頼もしい姿を示してくれました。)



【川岸の桜並木は今年も見事でした】

各ご家庭や地域の皆様方にとっても、中学校の制服を身にまとった7年生の姿は、少しだけ大人びて感じられるのではないかと思います。しかしながらこれからの三年間で、さらにびっくりするほど成長を遂げていくはずですよ。どうかその姿をしっかり見守ってください。

小国町の教育関係者の間には「9年生の姿に責任を持つ」という合い言葉があります。私はこの言葉が大好きで、この言葉を聞くたびに背筋が伸びる思いがします。この言葉は、小中学校の各学年の積み重ねを大切にし、中学校を卒業するときに「小国小中学校で学んで良かった」(保護者さん方からすれば「学ばせて良かった」という思いを持って卒業させることだと理解しています。

本校職員一同、生徒の成長に関わらせていただけることを大変嬉しく思っていますし、生徒を通じて、各ご家庭や地域の皆様方とつながらせていただけることを楽しみにしています。

この春に異動してきた職員は私を含めて8人。本校に配属されるまでの経歴はそれぞれであり、初任として勤めることになった職員や、大学を卒業して初めて教壇に立つ職員もいます。

私自身に限って言えば、4年前まで教頭として3年間勤務させていただいた学校であり、懐かしさと同時に、大好きな本校とこの町に勤めることができる喜びを感じています。

この一学期、生徒のきりっとした姿や気持ちの良い挨拶に、小国中がこれまで積み上げてきた確かな取り組みを感じる事が出来ました。しかしながら、コロナ禍での学校運営は、何かと制限されることが多くあります。体育大会をはじめ、各学年で予定していた行事など、二学期以降に先送りさせていただいた取組がいくつもあります。中止にすることは簡単ですが、職員と生徒が、こういう状況だからこそできることに目を向けて何らかの取り組みをしようとしておりますし、そういう姿を頼もしく思っているところです。

本町が掲げる「ALL FOR THE NEXT ～すべては次世代のために～」という基本理念のもと、小国中学校の取り組みを重ねていきます。ご支援の程、よろしくお願い致します。



## 「想定外を想定する」

昨今、「数十年に一度の」という言葉を毎年幾度も聞く機会が多くなってきました。そういう状況であることもふまえて、本校でもこの一学期、二度の避難訓練に取り組みました。

まず、4月28日(水)に実施した避難訓練(シェイクアウト訓練)は、「地震発生時の安全確保行動1・2・3(まず低く、頭を守り、動かない)」を身に付けるとともに、災害時に身を守るために臨機応変に対応しようとする力を育てることを目的とした取組でした。

職員間の事前打ち合わせの中では、生徒には教室での講話や避難経路の説明だけでなく、実際に避難する訓練を経験させたいという思いで一致していました。本校担当者の太田黒教諭は今年の三月まで東京都の公立学校に勤



まず低く

DROP!



頭を守り

COVER!



動かない

HOLD ON!

【シェイクアウト訓練のイラストです】

めており、東日本大震災時の記憶と経験があります。そして、他の職員も5年前の熊本地震の記憶が強烈に残っています。それは生徒も同様です。いつ何時、どこで、どんな災害に出くわすのか、それは誰にも分かりません。だからこそ万が一の可能性があるのであれば、様々な状況を想定した訓練を重ねていくしかないと思っています。

二回目は6月4日（金）に、「小中合同避難訓練」として実施させていただきました。平日の15時00分頃からという時間帯にもかかわらず、ご家庭の皆様方にもご協力いただきましたことに感謝しかありません。

この避難訓練は、大きな災害、事件等の発生時を想定し、児童・生徒を各ご家庭に安全・確実に引き渡すことを目的とした訓練でした。コロナ禍の状況ではありましたが、災害や事件等は、いつ何時発生するかわからないからこそ、その時の状況をふまえ、児童・生徒の安全をどのように守るのか、配慮すべきことは何なのか、本校の課題を見極めるために実施させていただいた次第です。

万が一の危険を回避するためには、様々な「想定外」を想定する取組が必要だと考えます。ここ数年、極端な気象状況による災害が相次いでいます。各ご家庭や地域の皆様方も様々な場面を想定したご家族の約束事を確認されておかれてください。その約束事はもちろんのこと、約束事を話し合うこと自体が、子どもらが「想定外」の出来事に対応していく力を高めることにつながるはずだと思っています。



【保護者の皆様のお力もお借りしました】



### 「小さな一歩、大きな一歩」

この一学期を振り返る中で、地域の皆様方に是非お伝えしておきたいことの一つがオンラインによる授業の取組です。

本校では、新型コロナウイルス等による万が一の休校や学年・学級閉鎖に備えた「学びの環境作り」を急速に進めました。本町には、全生徒用にタブレットを一台ずつ配備いただきましたが、本校ではそのタブレットを活用したオンライン授業（リモート学習）に取り組みました。

最初に、全学級でオンライン授業導入のための特設の学習会を行うとともに、後藤葵教諭や内村教諭が講師役を務めた職員研修会にも取り組みました。そして翌日には実際の授業で活用しながら、オンライン授業をいつでも実施出来るように急ピッチで準備を進めました。その翌週には、実際にタブレットを自宅に持ち帰らせての授業を実施させていただいた次第です。教室と各ご家庭がつながる中で授業が進められる様子に、時代は変わりつつあることを実感した次第です。

今回、初めての取り組みでしたが、意欲的に学ぼうとする生徒の姿と、チームとして熱心に準備を進める職員の姿に、何よりも嬉しさを感じる機会でした。取り組みとしては、まだまだ始まったばかりの小さな一歩ですが、可能性を秘めた大きな一歩だったととらえています。

また、この取り組みでは、各ご家庭にタブレットを持ち帰るに際しての「同意書」を提出いただく必要がありましたが、急なお願いにもかかわらず、ご協力をいただきましたこと本当にありがとうございました。

全国的に新型コロナウイルス感染症の再拡大が懸念されており、8月8日以降、熊本県でも「まん延防止重点措置」が再適用されることになりました。阿蘇郡市内でもその感染が急速に拡大しつつある現状にあります。今後予想される様々な状況に対して、万が一、休校や学年・学級閉鎖等の措置をとらせていただいた場合に、生徒の学びの環境を保障する一つの方法として、タブレットを活用したオンライン授業は、本校が示せる選択肢の一つだと言えます。

しかしながら、一学期に取り組んだ実践では、寄宿舎生徒が自宅に持ち帰っての配信テストは未実施のままですし、Wi-Fi（ワイファイ）環境についても、今後、お子さんの成長に合わせて考えていきたいという方針のご家庭もおありです。本校としては、様々な状況に対応した学習手段のご提案ができるように、継続して備えていく所存です。



【若い力、躍動】



【生徒の学びの吸収は早いです】



【教室と各家庭がつながりました】

